

## エコロジカルで健康な住宅、生活の質 レポート No. 2

——消費者保護のための雑誌『エコテスト』による健康住宅の紹介——

在ドイツ環境ジャーナリスト 村上 敦

2007年12月

ドイツにおいては、「この機関であれば何の心配もなく、安心して信頼でき、またその期待を裏切らない」という本当の意味での中立機関が存在する。市民運動から立ち上がったエコ研究所や大学や行政、そしてもちろん企業からも切り離された中立の研究機関、そして消費者を守るための中立の財団、団体などである。ドイツのスーパーの売り棚を見て歩くと、商品にシールで『Stiftung Warentest/年月日/成績/点数』といった表示をよく見かける。これは「商品テスト財団<sup>1</sup>」が、数多くの商品を独自の研究所で中立的に、さらにメーカーにとってはまったく弁解の余地もないほど高圧的ともいえる態度<sup>2</sup>で厳しく調査し、そこから出た値を『test : テスト』という雑誌で公表していることに起因する。『テスト』は、毎号平均すると 50 万部を超える販売数を持っており、医者や美容室などには必ず置かれているドイツの消費者のための商品・サービス情報公開を担っている。この雑誌『テスト』で、特に優れていると評価された商品は、スーパーの陳列棚から瞬く間に消え去ることも多い。影響力は抜群で、ドイツ市民に対するアンケート調査では、警察や政治や行政よりも、大幅に上回る信頼度で、このテスト財団を信頼していたことが判明している。

この財団とは、運営形態が異なるが、商品・サービスの環境性能に特に着目して、調査、評価、そして情報公開を行っているのが、雑誌『Ökotest : エコテスト<sup>3</sup>』だ。売り上げ部数は平均 18 万部、220 万人に読まれているとこの出版社は公表している。面白いのは、上述の『テスト』誌で評価が高かった商品を、再度この『エコテスト』誌が調査し、ときには環境性能や安全性の面で、実際は問題があったと公表している点だ。『エコテスト』社は、安全面が低いと評価した商品のメーカーからこれまでに 410 回を超える訴訟を受けているという。ただし敗訴したのはただの 1 度きりである。

このようにドイツには、複数の中立をうたう機関が商品とサービスの安全性と信頼性、価格をチ

---

<sup>1</sup> <http://www.test.de/>。1964 年に連邦政府が採択し、設立させた消費者保護のための財団。

<sup>2</sup> これはネガティブな意味ではなく、ドイツ語では「名声ある=renomieren」という単語で表される。

<sup>3</sup> <http://www.oekotest.de/>。1985 年に成立した営利企業形態の出版社。上述のテスト財団の商品・サービス評価においては、環境性能があまり考慮されていないと批判し、こちらも中立を主張する。

チェックしてしてくれる。とりわけ最近、毎日のように偽装事件が取り上げられている日本社会に住む消費者にとっては非常にうらやましい状況である。

そんなドイツの 2 大消費者保護組織のうちの一つ、『エコテスト』が、2007 年の初夏に住宅に関する特集を組んだ。もちろん建材の良し悪しから、省エネルギー性能、そして安全性能を評価しており、消費者、いわゆる施主が気をつけなければならないアドバイスが満載されている。そしてその特集の中でもとりわけ紙面を割いて紹介されていたのが、「Sentinel Haus 研究所」によるシックハウス症候群やアレルギーに対策を施した、いわゆる健康住宅の特集である。

この雑誌で紹介された内容を紐解きながら、前回に引き続いて再びこの「Sentinel Haus」プロジェクトを日本の皆様に紹介しよう。

### エコテスト『Oekotest Richtig Gut Leben – Ratgeber – Bauen, Wohnen & Renovieren, 2007』

上述したタイトルの雑誌の 115 ページから 136 ページまでにかけて、健康住宅について紙面は割かれている。そのタイトルは、『汚染物質の海に浮かぶノアの箱舟のように<sup>4</sup>』であった。ここでは、まずハンブルクに 2006 年に建設された総床面積 250 平方メートルの木造 2 階建て住宅が記されている。ある家庭が念願の新築住宅に入居して以来、家族の健康状態は少しずつ蝕まれていった。最終的に、家にいることの多かった女性は、化学物質敏感症（Multiple Chemikalien Sensitivitaet: MCS）になり、3 人の子供たちは強度のアレルギー体質となった。そうした絶望的な状況の中、少しでも気分転換をしようと家族で長期の休暇を取ることにし、スペインでキャンプを楽しむ。すると体調がよくなった。最初は、休暇でリラックスできたからと思っていたが、帰宅すると一気に状況が悪化。そこでようやくこれらの苦しみを与えた犯人が、新築のその家だということが判明した。詳しい調査を行うと、屋根裏に使われた木材の保存料が、DIN<sup>5</sup>では認められているものの、化学物質に敏感な人々にとっては悪影響を与える物質であったという。それに家族は反応したのだ。そこで、引越しをしようと賃貸などの物件も探すも、すでに健康を蝕まれている家族にとって安全な住宅はほとんど存在しないことも明らかになった。健康な住宅を求めて 1 年の間、そのシックハウスの中でもっと化学物質が少ない一階の 2 室に、5 人の家族は押し込んだように居住していた。そうした絶望的な状況の中、最終的にその家族は、設計事務所 Neue Baukultur GmbH と Sentinel Haus 研究所と出会うのである。

ここまでお読みの方は、周囲に似たような知人、友人を知らないだろうか。日本でも多発したシックハウス問題で被害を受けた人々は、同じような経験をしていることが報道されている。

---

<sup>4</sup> 「Wie eine Arche im Schadstoffmeer」。

<sup>5</sup> Deutsche Industrie Norm : ドイツ工業規格、日本の JIS 規格のドイツ版。

前回のレポート『エコロジカルで健康な住宅、生活の質——シックハウスを乗り越えたフライブルク市における試み』でも触れたようにドイツ環境基金からの研究資金を加えて、この家族は Sentinel Haus 研究所とともに新しい一戸建ての健康住宅を模索し、建設した。最終的にハンブルクには、建設終了引渡し時で TVOC 値が  $0.1\text{mg}/\text{m}^3$  以下、建築後半年経過した時点で  $0.3\text{mg}/\text{m}^3$  以下、そして1年後には TVOC 値が  $74\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、ホルムアルデヒトの値は  $20\mu\text{g}/\text{m}^3$  という非常に素晴らしい木造建築が竣工している<sup>6</sup>。

もちろんこうした化学物質・摘発性物質を検査する手法は、スイスでは健康住宅の信頼できる認定機関 S-Cert 社<sup>7</sup>が採用するものに拠っている。

このプロジェクトでも指揮を執ったバツハマンを含む Sentinel Haus 研究所について、このプロジェクトで使用された建材の認証機関ネイチャープラスについて、また Sentinel Haus 研究所が提供する健康住宅に関する教育プログラムや提携活動については、以下の WEB を参考にされるとよいだろう。ドイツ語、英語、フランス語などで数多くの情報が掲載されている。さらにドイツと日本の環境共生住宅のノウハウと建材など産業にかかわるネットワークを支援する German Eco Housing Industry Initiativ（ドイツ環境共生住宅産業ネットワーク）<sup>8</sup>など、国際的な連携を取り持つ環境も充実してきている。本レポートをお読みになられた建築関係者が、施主となる方々が、より多くの質の高い情報を共有し、この先、新築住宅という一生に一度の買い物で不幸が発生しない世の中を期待したい。



Peter Bachmann

健康住宅コンセプト、コンサルタント「Sentinel-Haus®」

WEB: [www.sentinel-haus.de](http://www.sentinel-haus.de)

日本語でのお問い合わせは、このレポートを作成した村上まで、メールいただければ幸いです。

Murakami Atsushi (村上 敦)

E-Mail: [murakaatsushi@hotmail.com](mailto:murakaatsushi@hotmail.com)

WEB: [www.murakamiatsushi.de](http://www.murakamiatsushi.de)

---

<sup>6</sup> これらの計測値、及び基準値などについては、前回のレポートを参照。

<sup>7</sup> [www.s-cert.ch](http://www.s-cert.ch)

<sup>8</sup> [www.ecos-consult.com/](http://www.ecos-consult.com/)